

# 円滑な透析前情報収集の取り組み

～外来透析患者へ問診ノート導入を試みて～

透析室 宮上晃子 大曲幸枝 周防屋元子  
下田紀代美 富永信世 中村広子

はじめに

日本透析学会の発表によると<sup>1)</sup> 2008 年末のわが国の透析人口は 283,421 人である。当院においても透析患者数は年々増加傾向にあり、現在約 90 名の患者が血液透析を行い、そのうち 60 名が外来維持透析患者である。週 2～3 回、4～5 時間の透析治療を繰り返す患者に対して、看護師は、入院患者と同様に患者のニーズに対応する事が望まれる。しかし、入室し穿刺順番が回ってくる約 15 分間では、ゆっくりと詳しく問診出来ず患者個々に合わせた看護の提供が困難であった。そこで現在の透析前情報収集を見直す必要があると考え、問診票を導入することを検討した。今回の研究で、繰り返す透析治療のために使用できるノート式の間診票を作成した結果、情報収集のツールとして効果を得たので報告する。

## I 研究目的

問診ノートを活用する事で、円滑な透析前情報収集が出来る。

## II 研究方法

- 1.研究期間 平成 21 年 12 月～平成 22 年 7 月
- 2.研究対象 外来維持透析患者 60 名 (男性 27 名・女性 33 名・年齢 31～83 歳・平均 64.1 歳)  
当院透析室に勤務する看護師 12 名
- 3 倫理的配慮 看護部倫理委員会に承認を得た調査用紙を使用し、研究の趣旨及び個人情報保護の厳守を書面及び口頭で説明し同意を得た。
- 4.方法

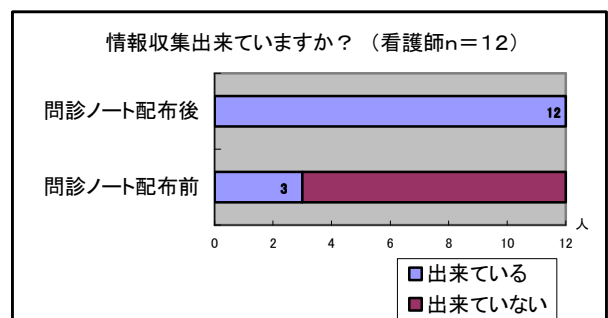
- 1) 問診ノート作成前調査を以下の内容で実施
  - ・患者に「透析前に看護師に伝え忘れた事」について・看護師に「実際にあった訴え」「問診ノートにあげたい項目」「透析前情報収集はできていますか」について
- 2) 1) の結果を基に問診内容を決定し、問診ノートを作成した。
- 3) 問診ノート配布後、使用状況の調査を実施。
- 4) 問診ノート配布後、感想や意見を、患者には聞き取り調査、看護師にはアンケートで調査を実施。

## III 結果

- 1) 問診ノート作成前調査の結果、伝え忘れた内容として、排便に関して (25%)、体調に関して (88%)、シャントに関して (19%)、内服薬の希望 (15%)、転倒したこと (5%) 等があった。看護師アンケートでは、最終排便、便秘・下痢の有無・食事摂取状況・体調について・定期薬や臨時薬の希望、シャントの状態が気になったこと・他科受診情報などがあった。情報収集に関しては、出来ていない

と答えた看護師は 75% だった。

- 2) 問診ノート作成・形態・使用方法を決定。問診内容 6 項目決定した。透析室入室までに☑式で記入。問診ノートを確認した看護師はNsサイン欄に名前を記入する。携帯するよう指導している透析手帳とほぼ同じ大きさにし、p14(約 1 ヶ月分)のノート式とする。
- 3) 使用状況の調査を実施。持参率 90%。項目別記入率はすべての項目において 90%以上であった。
- 4) 聞き取り調査では、「書きやすい」「チェックだけで済むからいい」という反面「めんどくさい」「自己判断するのが難しい」という意見がきかれた。看護師アンケートでは情報収集できていると 100%の看護師が答えた。



## IV 考察

### 1 看護師側面

問診ノート配布後は 100%の看護師が情報収集できていると返答し、状態把握が短時間でできるようになったなどの意識の変化が見られた。

吉見ら<sup>2)</sup>は「看護師が患者様に早期かかわり、情報収集をし医療チームの一員として最初に情報を提供していくことが重要であり、結果として患者様の満足度を高めるためには必要不可欠のものと述べている」。透析前の限られた時間の中で問診ノートを活用した事は円滑な情報収集に効果があったといえる。

### 2.患者側面

患者に負担をかけないように配慮した事が問診ノートの定着化に繋がったといえる。透析のたびに問診ノートに記入してもらう事は自らの体調の変化に気を配るための意識づけとなり自己管理の一手段といえる。記入しない数名の患者に対して問診ノートの必要性を理解させていく事が今後の課題である。

## V 結論

問診ノートを活用する事は、円滑な透析前情報収集に効果がある。